

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・保護者によると「学校は、自主性・創造性のある生徒を育てようとしている」項目において、「よくあてはまる」「ややあてはまる」という評価の合計は83.2%となり昨年度(79.0%)から増加しているが、「学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている」項目においては69.6%と昨年(73.9%)より減少している。概ね本校の学習指導の方向性について保護者の方々に理解されていると思われるが、個々の生徒の要望に応える教育を提供していく必要がある。</p> <p>・学習指導において「学校は子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている」「個人の興味・関心、希望や能力にあった選択授業や少人数授業を行っている」の項目等では保護者より、生徒の評価が高くなっているが、保護者の分からないと答えた割合が多い。「保護者が授業を参観する機会等をよく設けている」項目では80.1%と高いが、実際に参加してもらえる機会を作る必要がある。全般には評価が低い項目もあり、授業改善に努める必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校及び家庭での学習習慣の確立 ◇生徒自らが学習を計画的・積極的に行うことができる ◇高度な教育内容を維持し、リーダーとしての資質を育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・クラス担任及び教科担任との連携強化（教育相談との連携）</p> <p>・授業内容の向上とその方策の研究（課題の見直し等）</p> <p>・高大接続改革に関わる新教育課程の研究及び立案</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・学習アンケート・学習時間調査の結果を基にした各分掌・教科での分析 ・定期考査や外部模試等の結果分析を基にした指導内容の検討 ・「総合的な学習の時間」「SSH」の充実	(1) 個人面談指導による生徒把握 (2) 定期考査や外部模試等、調査 (3) 総合的な学習の時間・SSHの発表等	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・個別懇談期間以外にも放課後、昼休みを利用したきめ細かな面談を実施し、個別対応を強化する。 ・校外模試の分析結果を職員会議で報告し、職員間で情報を共有し、各教科で対策を検討する。 ・45分の授業を有効に活用するため、授業改善に努め自習時間をつくらない等、職員の意識統一を図る。	①学習習慣の定着 ②生徒学力の把握 ③学習意欲・向上心の喚起	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	・HPによる恵那高トピックスの常時の更新、中学生一日体験入学の内容の検討等により教育活動の周知を図ることができている。更に継続的に取り組み、いろいろな媒体を使い、本校の教育活動の一端を周知させていきたい。 ・「学校の教師は、子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる」については、保護者、生徒ともに高評価をいただいている。授業・部活動あらゆる場面での教師の積極的な取り組みへの成果であろう。授業内容についての信頼も生徒から高評価である。しかしあまりあてはまらないと答える生徒も15%程度いることや、分からないと答える保護者も多い。生徒、保護者からの期待に答えられるよう更に授業内容、学習課題の出し方などの工夫・改善をしていくことが大事である。	
12 来年度に向けての改善方策案 ・生徒の学習活動を高め、個々の能力を向上させるため、授業研究週間等を通して、授業改善を図る。また、課題等の出し方による生徒の負担感の解消、内容の定着の効率化を図る。 ・行事ごとにHPで報告すると同時に、学校紹介パンフレット等を作成し、広報活動に利用する。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月24日

### 【意見・要望・評価等】

- ・新しい校舎であり、スペースもありゆったりと勉強ができる環境にある。文化の香りのする学校になるとよい
- ・昨年度アンケートで、生徒、保護者からの評価が低かった項目に対して対策をしていることが分かる。
- ・幅広い考えをもつ生徒がいるなかで、引っ込み思案の生徒へのフォローなど、現状で困っている生徒をどうするかが課題である。一人一人に寄り添った教育をお願いしたい。